

研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム
プロジェクト推進型 SBIR フェーズ1 支援
2024 年度事後評価結果

グラント番号	JPMJST2452
研究開発課題名	投影・表示系分離構成による軽量・電源レスな拡張現実感 (AR) ディスプレイ空間技術の開発・事業化
研究代表者	東京大学 大学院情報学環 特任准教授 伊藤 勇太
研究開発成果の概要	従来の AR メガネが抱える重量、電源供給、処理リソースの課題を投影・表示系分離構成により解決する「Beaming Display」の開発に取り組んだ。PoC として、受光メガネの小型化や映像出力遅延を抑えた投影系の実現と、国内・国際会議での展示、特許調査、事業計画立案を実施した。

総合評価

従来の AR メガネとは異なる独創的なアイデアに基づく技術を応用し、実用化に向けた技術改良や機器開発に着実に取り組んだと評価できる。競争が盛んな分野であり、利用場面も複数考えられるため、AR メガネや空間ディスプレイの競合を常に意識し、ヒアリングや展示会でのユーザ候補とのコミュニケーションを続けることでキラーアプリケーションを見出すことを期待する。

以上